

## 斜里町・羅臼町・標津町におけるヒグマの出没状況及び人為的死亡数（速報） （2017年11月10日時点）

### 1. ヒグマの出没状況

○斜里町及び羅臼町において、ヒグマの目撃数アンケートを実施した。

＊3月～翌年2月までをその年の数字として集計した。

#### 斜里町

- ・2017年3月1日以降の目撃件数は、10月末時点で1266件。すでに2016年度の1035件を上回る。
- ・月別目撃数について、例年の傾向は7～8月をピークに徐々に減少していくパターンであるが、今年は8～10月の月別目撃数が顕著に多い状況。

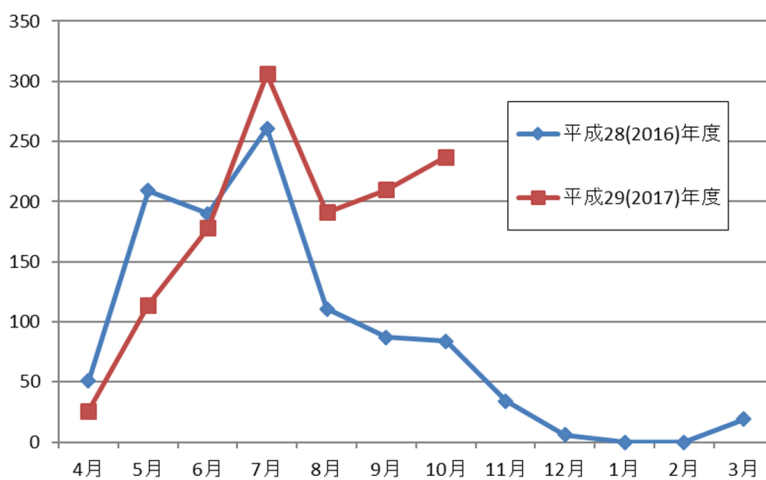


図1. 斜里町におけるヒグマ目撃件数の月別変化

#### 羅臼町

- ・2017年4月1日以降の目撃件数は、10月末時点で203件。2016年度の260件を下回る。
- ・月別目撃数について昨年と異なったのは、6月が突出して多いこと、10月に再び増加に転じたことである。

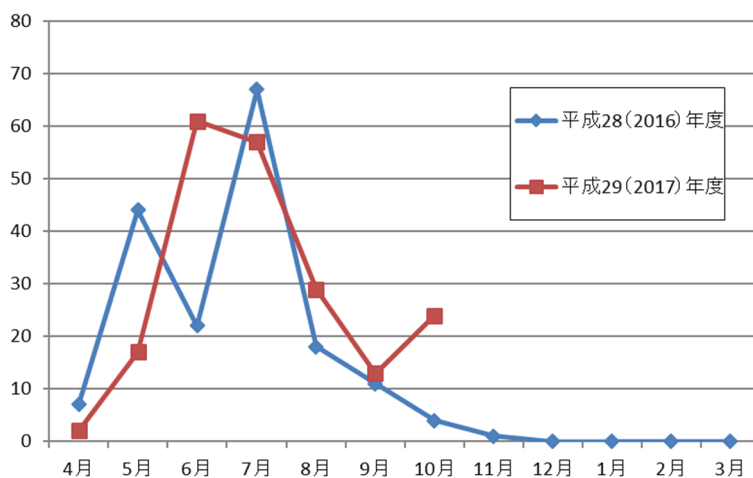


図2. 羅臼町におけるヒグマ目撃件数の月別変化

○標津町においては目撃数アンケートを実施していない。以下には対応件数を示す。

標津町

- ・2017年のヒグマ対応件数は、11月10日時点で112件。過去最多であった2013（平成25）年度の49件をすでに上回る。

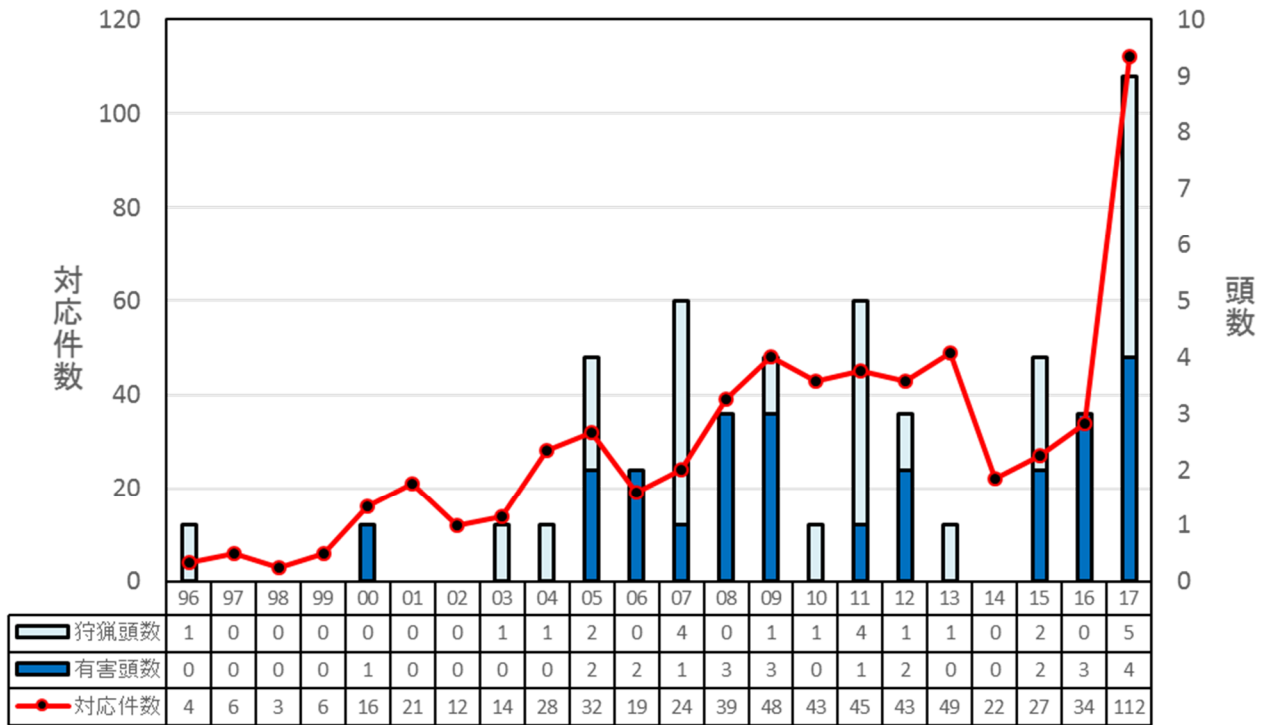


図3. 標津町におけるヒグマ対応件数の推移

\*2017年11月10日時点の数字

## 2. ヒグマの人為的死亡数（有害捕獲・狩猟）

・2017（平成29）年 計44頭（斜里町26頭、羅臼町9頭、標津町9頭）

\*1～12月に捕獲された個体をその年の捕獲として集計。

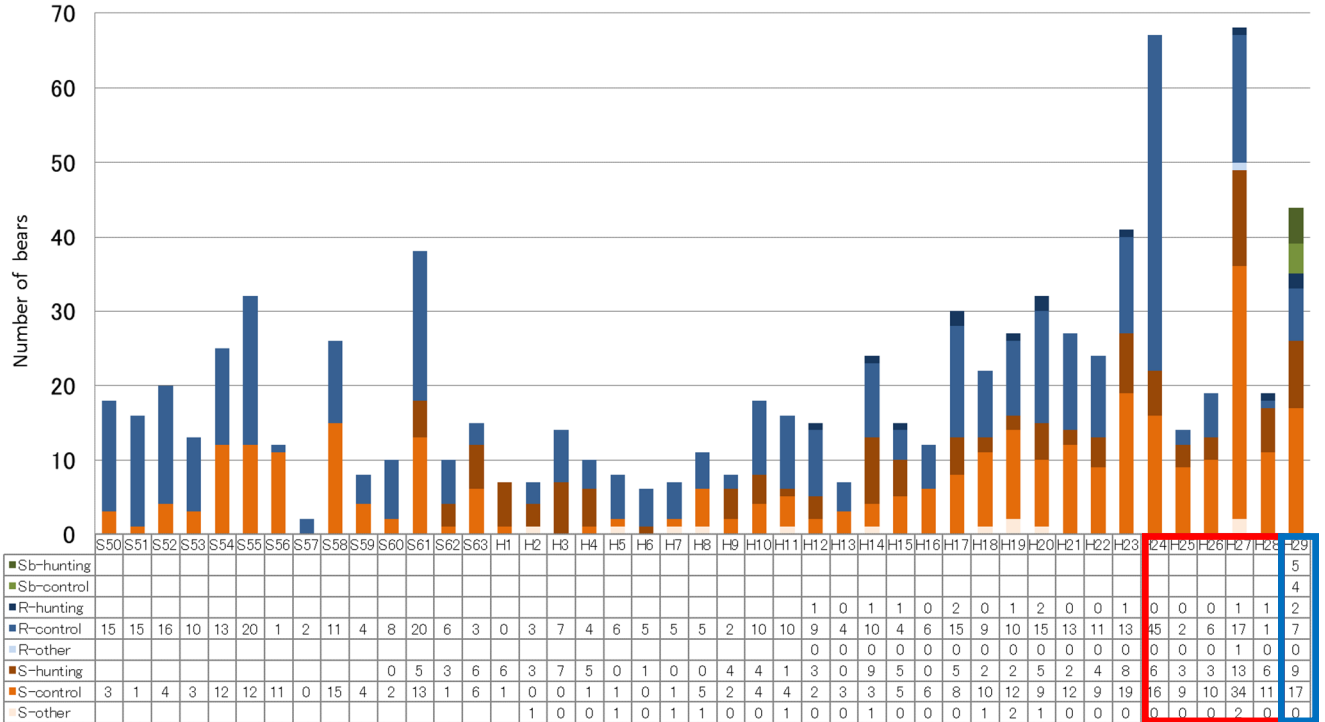


図 4. 斜里町・羅臼町・標津町におけるヒグマの人為的な死亡数

（R：羅臼町、S：斜里町、Sb：標津町、hunting：狩猟による捕獲、control：有害捕獲、other：事故死）

\*1975-1984（S50-59）の羅臼町の数字については知床の哺乳類に掲載の図から読み取って記入

\*1986年（S61）以前の狩猟による捕獲数はデータなし

\*標津町については2017年から記載。その他の空白セルはデータなし

<人為的死亡個体の年齢・性の内訳>

・2017年の3町におけるヒグマの人為的死亡個体の内訳は、メスが21頭、オスが23頭。

表1. 2017年の3町におけるヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・性別）

年齢／性別	メス	オス	小計
0歳	1	1	2
1歳	2	7	9
2歳	2	2	4
3歳以上	15	14	29
小計	20	24	44

表2. 2017年のヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・場所別・性別）

年齢／ 場所・性別	斜里町		羅臼町		標津町		小計
	メス	オス	メス	オス	メス	オス	
0歳	1	0	0	0	0	1	2
1歳	1	6	0	1	1	0	9
2歳	2	1	0	0	0	1	4
3歳以上	10	5	3	5	2	4	29
小計	14	12	3	6	3	6	44

<捕獲要因>

- ・斜里町におけるヒグマの捕獲要因は、農作物加害が14頭と過半数を占める。また狩猟による捕獲にも農地（ビート・スイートコーン等）における捕獲が複数含まれる。その他には、国道脇で下半身不随となっていたため捕殺（安楽殺）した個体を含む。
- ・羅臼町における狩猟による捕獲2頭のうち1頭は、水産加工場近くで捕獲された個体であり、加工場の残滓に誘引された個体の可能性が高い。
- ・標津町における狩猟による捕獲5頭のうち4頭は、農地（デントコーン）における捕獲である。
- ・行動履歴から捕獲された個体には、ふ化場に繰り返し侵入した個体や民家の物置や番屋のトイレを破壊した個体、工事現場や民宿の裏に繰り返し出没した個体が含まれる。

表3. 3町におけるヒグマの捕獲要因の内訳（2017年）

斜里町		羅臼町	
農作物加害	14	住宅地への侵入又は接近	4
狩猟	9	狩猟	2
行動履歴から	2	行動履歴から	2
その他	1	漁港侵入	1
計	26	計	9
標津町			
狩猟	5		
人材育成	1		
住宅地（酪農家）へ接近	2		
行動履歴から	1		
計	9		